



園だより

たかがみねこども園

一年の中で一番過ごしやすい季節を迎えました。お散歩や戸外遊び、出かける機会も増えてきます。秋の自然に存分に触れ、季節の移り変わりを楽しみたいと思います。今月は『びわ湖こどもの国』『亀岡 夢コスモス畑』『動物園』へ行きます。



～ 10月の目標 ～

- ☆ お散歩へ出かけ、どんぐりや色づいた葉っぱを拾ったり、見たりしながら季節の移り変わりを感じ、感性を豊かにする。
- ☆ 運動遊びを通して、十分に体を動かし、体力をつける。



読書の秋！

読書の秋ですね。園では各クラス、毎日子どもたちと一緒に楽しく絵本を読んでいます。それだけではなく、ちゅうりっぷ組（2歳児）からうめ組（年長）まで、毎月絵本を購入しクラスで読んだあと、ご家庭に持ち帰り、親子のコミュニケーションのツールとして利用していただいています。絵本は年齢によって違い、文字や数などの学び、排泄や着替えなどの生活習慣、シール貼りなどの遊びが組み込まれた『知識絵本』、イソップ・アンデルセン・グリム童話・日本昔話などの『物語絵本』などを取り入れています。

昔は家庭でおじいさまやおばあさまが昔話を語り継いでいきましたが、核家族化が進んだり、たくさんの絵本があることで昔話離れが起こっていると言われていています。そこで、今年度はもっと昔話を知ってもらおうとさくら・ゆり組で物語絵本を取り入れました。

童話や昔話にはこんないいところがあります。

例えば、皆さんご存じの『大きなカブ』。おじいさんが畑で育てた大きなカブがなかなか抜けないため、おばあさん、孫娘、犬、猫が次々とやってきます。それでも抜けず、最後にねずみを呼ぶと、やっとカブが抜けたというお話です。話は単純ですが、もし登場人物が真逆になっていたらどうでしょう。

ネズミが畑にカブの種を蒔いて、猫を呼び、犬を呼び…最後におじいさんが手伝ったら抜けました。これだと「結局力のある人がやらないとダメなんだ」となります。しかし、本来の絵本のように最後のネズミのちっぽけな力でびくともしなかったカブが抜けたことで、このお話には「どんなに小さい者にでも価値がある」というメッセージが込められているのです。

他にも、日本の昔話には、「人はよい行いをすればよい報いがあり、悪い行いをすれば悪い報いがある」など、人生の教訓になるようなお話がたくさんあり、道徳心や大切な価値観を学ぶことができます。また、昔の光景や言葉など、日本文化の大切さを伝えることもできます。

秋の夜長に子どもたちとゆっくり昔話を読んでみませんか。保護者の方も昔のことを思い出し、懐かしさを感じられるのではないのでしょうか。